

NPO 法人

第 59 号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578

TEL 055-288-2345 FAX 055-288-2531 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

カモシカ調査に行ってきました！ 堀内 訓

数日前に東京では木枯らし一号が吹いた10月24日（土）に北沢峠の手前、野呂川出合両俣に自然環境研究センターの三浦貴弘さん、兒玉尚也さんと一般参加の田澤優太さん、ファンクラブのメンバー7人の総勢10人でカモシカ保護地域特別調査に行ってきました。この調査は山梨県の教育委員会からの依頼で、7年ごとに行われているものです。調査方法は区画法といわれるもので、同じ場所で同じ時期に実施し、カモシカの生息・痕跡（個体・食痕・糞・角研ぎ跡等）を探すものです。

8時に山岳館に集合、自然環境研究センターの三浦さんから調査の説明をもらった後に、地図・高度計・コンパス・熊避けスプレーを貸して頂きました。いつもの登山と違って、今日調査するところは道がありません。頼るは貸して頂いた道具を使って自力で下山することになります。ちょっとしたサバイバル体験で緊張が走りました。山岳館から車2台に分乗し、目指すは野呂川出合両俣。車窓から見える峡谷は今や紅葉真っ盛りです。この景色に誘われてカモシカも姿を見せてくれるといいのですが。

ここで、自然環境研究センターの三浦貴弘さんから教えて頂いたカモシカの生態と、調査のことについてお知らせします。特別天然記念物のカモシカは日本固有種で、世界でも学術的に非常に価値が高い貴重なほ乳類です。

南アルプスでは、山麓から亜高山帯までその姿を見ることができません。



カモシカ

カモシカはウシ科に属する日本固有の動物で、中国地方を除く本州、九州、四国のごく限られた山岳地帯に生息しています。南アルプス保護地域での推定生息数は約500～2,000頭と考えられています。以前に比べたら1,000頭近く減少したことが調査によって明らかになりましたが、その理由はよく分かっていません。

カモシカの成獣はおよそ40～60kgの重さで、全身は灰色や黒色、灰褐色の毛で覆われていて、首の部分に灰褐色の毛が広がっています。その姿から、登山者は親しみを込めて「^{やまじい}山爺」と呼ぶことがあります。まれに全体の毛が白いカモシカもいます。頭にはオス、メスともに短い角があり、^{ずんどう}寸胴（全体が同じように太い）で好奇心が強く、登山道で出会ってもあまり逃げようとはしません。目があまりよくないともいわれています。

カモシカは、ニホンジカのように群れで行動することではなく、1年のほとんどを1頭で行動しています。縄張りを持ち、他のカモシカが自分の縄張りに入ると威嚇をして追い払います。カモシカの繁殖期は10～11月頃で、翌年の4～6月頃に1頭の仔を生みます。オスは子育てには参加せず、再び単独行動に戻ります。仔は1年ほど母親と一緒に暮らしますが、やがてはその縄張りから出ていきます。カモシカは切り立った岩などで休んだり、「ため糞」と呼ばれるようにトイレの場所が一定していたりと、独特な生活様式を持っています。また、カモシカはニホンジカに比べて日中行動することが多く、南アルプスの登山道でも頻繁に目撃されています。



調査場所を確認中

カモシカは古くから狩りの対象として山岳地域に住む人々にとっては貴重な蛋白源になっていました。カモシカの肉は他の野生動物に比べ味も良く、また毛皮は防寒具などに加工されたりして人々の食糧や収入源として利用されてきたのです。ところが乱獲が続き、全国で3,000頭までに減少し、絶滅寸前にまでなりました。大正14年(1925)、国は狩猟法を改正して狩猟獣からカモシカを除外しました。カモシカは世界的に見て、日本固有種で学術的にも非常に価値が高い動物だということが分かってきたのです。昭和9年(1934)、国の天然記念物に指定され、さらには昭和30年(1955)、特別天然記念物に指定され保護を受けました。現在では11万頭まで回復したとされています。しかしその一方で手厚く保護した結果、生息数が増え、やがて造林地における樹木への食害、農作物に対する被害が深刻化してきました。特別天然記念物に指定され保護された結果、カモシカの生息数が増加し、絶滅の恐れはなくなったものの、今度は人間の生活圏との間で問題が生じるようになってきました。こうした状況を見て天然記念物を所管する文化庁では、昭和54年(1979)、関係する省庁と連携してカモシカの保護と食害防止を両立させることを目的に全国で15か所のカモシカ保護地域を計画しました。現在は四国と九州を除いた13か所を設定しています。南アルプスのカモシカ保護地域は、昭和55年(1980)に設定されています。また文化庁では、昭和60年(1985)に「カモシカ及びその生息地の保存管理マニュアル」を作成し、定期的な調査を実施して保護に努めています。

さて、実際の調査はというと、各個人に割り振られた区画(登り下り各2時間)まで、芦安ファンクラブの井口さんを先頭に登っていきました。まさしく自分たちが大自然と一体化して野生の動物になった気分でした。全員が配置につくと、三浦さんから無線で「調査を開始してください。」と、合図が入りました。山の中にただ一人残されたそれぞれのメンバーは地図・高度計・コンパスを頼りに調査開始です。コンパスの使い方と地図の見方は井口さんに先ほど教えて頂きました。全くのわか仕込みのルートファインディングですが、方向を間違えないように各自が必死でした。



コンパスを使って地図を読む

中には、大きく逸れて、隣のブロックまで入り込んだり、丁寧に調査しすぎて1時間が過ぎても、中間地点よりもずっと上部にいて急いで下山したりするメンバーもいました。しかし、そこはファンクラブ関係者。全員が無事に林道に降りることができ、野呂川出合両俣での生還を喜び合いました。



成果はというと、兒玉さんがカモシカの「ため糞」を見つけました。ということは、この場所もカモシカの縄張りになっているということです。その他は、角研ぎ跡・ニホンジカの糞や痕跡(木の幹への歯形)・砂浴びの跡等が見つかりました。

今回のカモシカの調査に参加させてもらい、ファンクラブに関係していなければ、このような体験は絶対できないと思いました。とっても気持ちのよい、また、達成感のある1日でした。自然環境研究センターの2人は、この後には伊那に行って調査をされるようです。猟期になると獣と間違われて撃たれてしまう危険があるということで、この時期は家に帰ることはできないと言っていました。また、7年後の再会を誓って、調査隊を解散しました。



カモシカのため糞



シカの角とぎ跡

～メンバーの日常から～

このコーナーでは、芦安ファンクラブのメンバーが行っている様々な活動や日常の風景などをご紹介します。今回は、昨年新メンバーとして加わった、望月仁美さんの日常です！

「つぶつぶ料理で幸せに」 望月 仁美

「つぶベジクッキングサロン南アルプス」を主催している望月仁美です。つぶつぶ（雑穀）とベジタブル（野菜）を美味しく料理するコツを少人数でアットホームな自宅の教室でお伝えしています。昨年7月より「つぶつぶ料理コーチ」の資格をいただき、料理教室をはじめました。

「つぶつぶ」とは雑穀の愛称で、つぶつぶグランマゆみこさんが名付けました。33年前に家族で山形の山の中に引っ越し、自然の中で子育てしながら生活する中で創り出していった料理術を30冊を超える本にまとめています。そのレシピを目の前で再現し、見て、感じて、味わって、料理法を知り、体感していただく教室です。

「未来食つぶつぶ」は、つぶつぶグランマゆみこが提唱する、雑穀と野菜・海草のエネルギーを宇宙ルールで引き出して調和させた、心と地球を元気にする食術であり、舌に、体に、心においしいシンプル&スタイリッシュなグルメベジタリアンの提案です。

つぶつぶレシピは、材料も作り方もシンプルで簡単。素材の味を引き出すための最小限の手数で最大限の美味しさを生み出しています。美味しさを引き出す二つのポイントは、ひとつは素材の持つ本来の力を信頼して料理すること。目からウロコの料理術！余計な作業は一切せずに引き算の料理とも言われています。混ぜるだけ、まとめるだけ、のせるだけ、煮含めるだけといった料理術が数多くあります。レシピに沿って、材料、分量、作り方を忠実に再現すると、美味しく健康的な料理がだれにでも作れます。美味しさを最大限に引き出すもう一つのポイントは、本物の調味料を使うこと。塩・醤油・味噌・酒・油を基本の調味料とし、砂糖は料理にもスイーツにも使いません。昔からの伝統的な製法で作られた調味料を使って素材の味を引き出します。スイーツは砂糖もメープルシロップもハチミツも使わないのに、どうしてこんなに甘くて美味しいの！と驚かれると思います。

つぶつぶ料理に登場する主な雑穀は、ヒエ・もちアワ・うるちアワ・もちキビ・高キビ・粒ソバ・麦・アマランサス・キヌアなどです。そのまま炊いたり、野菜と一緒に炊き込んだり、いくつかは粉にして、お料理やお菓子にも展開しています。

そして、つぶつぶ料理は、赤ちゃんからお年寄りまで、大人も子どもも同じものを食べて楽しめる料理です。赤ちゃんにそのまま食べさせることができるので、お母さんがとても楽になります。また、アトピーやアレルギーで悩んでいる方が、楽しく食べながら改善されていく様子を数多く見させていただきました。

美味しい料理は舌も体も心も満足させ、幸福感で包んでくれます。「つぶつぶ料理」をお伝えすることで、幸せな食卓が広がり、幸せ家族が増えていくことが私の望みです。



芦安ファンクラブのメンバーたちも、さっそくランチに出かけたようです。興味のある方は、ぜひお問い合わせを！「つぶベジクッキングサロン南アルプス」で検索してみてください。

第39回登山教室～仙丈ヶ岳／栗沢山

平成 27 年度最後の登山教室は、9 月 26 日～27 日に実施しました。紅葉の南アルプスを満喫すべく、栗沢山コース、仙丈ヶ岳コースに分かれて出発しました。今回は仙丈ヶ岳コースにご参加いただいた 3 名の方の感想を掲載します！

岡野 芳洋さん(南アルプス市)

当日は、天気予報を裏切り、雲間に青空も見え始めていました。意気揚々と山岳館を出発。

まず、車窓から目につくのは、無数の富士アザミたち。先々期待できそうな予感。

しかし、7月の百花繚乱の北岳の感動から、登山道での花との出会いを期待したのは誤りでした。長衛小屋から歩き始めてみると9月下旬のこの季節、高山では花の時期はとくに終了。アキノキリンソウやセリバシオガマなど一部咲遅れた花をわずかに見るのみで、ややがっかりさせられました。しかし、やがて、ナナカマドの黄やオレンジが目飛び込んでくると、周囲も大いにもりあがってきました。さらに高度を上げると、ダケカンバも黄色に紅葉し、雄大なカールを埋めている這い松の緑と絶妙なコントラスト。花の時期も見てみたいが、この季節も確かに美しい。

仙丈小屋で一泊し、翌日はよいよメインの仙丈、小仙丈の山頂だ。

二日目は晴れ期待に反して、仙丈ヶ岳山頂からの眺望はガスに阻まれ、やや残念。でも、わずかなタイミングで雲をつきぬけた富士と北岳の2ショット写真を撮れたのはなによりでした。また小仙丈付近で初めて雷鳥にも出会え、写真までとれたことは、最高のできごとでした。

野澤 佐知子さん(南アルプス市)

仙丈ヶ岳というと、一昨年雨の中登山した思い出がなく、加えて今年の登山は雨に見舞われることが多く、今回の登山教室も不安であった。しかし、当日は思いがけず天気に恵まれ、落ち込んでいた気持ちも晴れやかになった。

1日目は優雅な姿の仙丈ヶ岳を見ながら、仙丈ヶ岳小屋を目指す。山は緑と、紅葉で色付き始めた赤と黄色で、見事なコントラスト。昨日まで雨であったのが返ってよかったのか、青空に山の色が映える。まさに『女王』の姿は美しい。

2日目は晴れ・・・の予想であったが、生憎の曇り空。しかし、風があったため、時折視界を広げてくれ、日本の山『1(ワン)・2(ツー)・3(スリー)』が見事に一望でき、仙丈ヶ岳登山を満喫できた。

登山教室では山の歴史以外に毎回多くのことを学ぶ。今回も草木や花の大切さ、山のマナーなど当り前のことであるが、再度勉強させられた。また、登山を楽しむためには、真剣に取り組み、努力もしなければならないことも感じた。自然に触れ合うこともそうであるが、ファンクラブの皆さんや教室に参加された皆さんと触れ合うことで、自分自身がまた一回り大きく成長できた機会であった。登山は奥が深いと改めて感じた。



ライチョウ



紅葉に染まる甲斐駒ヶ岳

榎本 信子さん（国分寺市）

今回の登山教室は2回目の参加となります。今年6月の鳳凰山登山に参加して登山教室の楽しさを知りました。日頃は月1～2回友人達と6～7人で主に中央線沿線や奥多摩の山に登っていますが、それとは少し目的が違うこの芦安登山教室は、ただ山に登るだけでなく「登山の知識」「自然保護」「南アルプスについて」などについて、登りながら、また座学で学べるととても良い企画だと思います。まだ2回目ながら、参加する度に新しい仲間が増え次回が楽しみになってきました。

それから、今回参加したもう一つの目的は、山岳館で行われている「犬塚 勉」絵画展を見ることでした。NHK TV 日本百名山「北岳、間の岳」の時に犬塚さんが描いた「縦走路」が紹介されました。それを見てとても感激しました。それと言うのも、私はポタニカルアート（植物細密画）を習っていて細密画は見慣れています。犬塚さんの絵が大自然をテーマにしてまるで写真のように描かれていたことに感動したのです。それ以来この絵の素晴らしさにすっかり魅せられていました。芦安で本物を見られるとは最高です。絵のサークルの友達に「縦走路」「梅雨の晴れ間」「6月の栗の木の下より」など沢山の絵ハガキを買って帰りました。サークルの友達もきっと目を丸くして見入ることと思います。



イワヒバリ

【今回の植物メモ】

- 花が残っていたもの
ホソバトリカブト、ミヤマカラマツ、ツメクサ、セリバシオガマ、タカネヒゴタイ、クロクモソウ
- 実が付いていたもの
ゴゼンタチバナ、コケモモ、ヒロハヒョウタンボク、ウラジロナナカマド
- 紅葉していたもの
ウラシマツツジ、ミヤマダイコンソウ、ミヤマキンバイ、ミネカエデ、コミネカエデ、コイワカガミ、チングルマ、ヒメイチゲ、ナナカマド、ウラジロナナカマド、クロマメノキ
- 目に留まったもの（花は終わっていました）
カニコウモリ、ジムカデ、ズダヤクシュ、コフタバラン、ハリブキ、タカネヨモギ、トウヤクリンドウ、ハイマツ、アオノツガザクラ
- 今回姿を見た鳥
ライチョウ、イワヒバリ



山頂にて皆さんと



北岳 (No2) と富士山 (No1)

富士山レンジャーの紹介 中島 紫穂

2 年ほど前、芦安ファンクラブが行った登山道調査に参加していただき、現在は富士山レンジャーとして活躍中の中島紫穂さんに、富士山レンジャーのお仕事についてお話を伺いました。

【富士山レンジャー発足の経緯】

○富士山レンジャーは、山梨県観光部観光資源課所属の非常勤職員（2015 年 12 月 1 日現在）
アルピニスト野口健さんが当時の県知事に「県にも富士山のレンジャーが必要では？」と働きかけた事がきっかけで 2005 年に山梨県富士山レンジャーが発足しました。現在は 7 名で活動しています。

【富士山レンジャーの業務について】

○巡回（パトロール）

主に富士北麓地域のパトロールをおこなっています。東海自然歩道などの登山道の状況の確認や簡単な整備作業、登山道に設置されている施設の点検、また、国立公園に指定されているエリアでの利用のルールとマナーの啓発、富士山開山期の約2カ月間は5合目や山頂までの登下山道で安全登山の指導や巡視もします。他は林道から林内へ侵入される事のある車両乗り入れ禁止エリアの監視、不法投棄の監視もしています。富士五湖自然保護官やアクティブレンジャーの方とも合同にて巡回パトロールをする事もあります。

○教育、解説

教育支援事業として、富士山レンジャー環境教育プログラム（富士山環境学習支援プログラム）を地域の方や学校、企業、各種団体などを対象に実施しています。富士山レンジャーが巡回中に撮影した写真等を用いて講義しています。

○その他の活動

富士山清掃活動の参加、富士山関連の番組や新聞等の取材協力など

○今年の富士山開山期の業務

富士山レンジャーの活動の中でも、富士山開山期の巡回パトロールは重要な仕事で、一番忙しい時期です。富士山は他の山域に比べて観光者の割合も多く、外国人も多いです。富士スバルラインを使えば 2305m の五合目まで車で来る事が出来る為、軽装な服装での登山者を多く見かけます。特に吉田口登山道は山小屋もたくさんあり、安心感があるのか、荷物も持たず、カメラとペットボトルだけと言う人もたまにいます。富士山レンジャーは五合目で服装や装備の確認をしたり、登山道で発見した軽装登山者に声をかけたりと交代勤務で巡回パトロールを毎日実施しました。また、普段登山をしない人が富士山に登りに来ることで、下山時にトラブルが起きたり、下山する体力が無くなり救助を要請して来る人もいます。

富士山は 3776m ある日本一の山です。酸素も薄く、気温も低い過酷な場所で観光気分では登れません。きちんとトレーニングをして、事前に情報収集や準備をしてきて欲しいと思います。

登山道が閉鎖期間に入ると五合目～山頂のパトロールは終了し五合目より下の登山道のパトロールのみになりますが美しい雪に覆われた富士山の側で働ける事はとても幸せに感じます。この美しい富士山の自然と安全を守るために日々精進し頑張ります。



セミナーで講演中の中島さん



五合目にて啓発活動



混雑する登山道